京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

[illegible]
發行兼編輯人　高木久馬太郎
印刷人　佐久間一郎
發行所　京城西小門通　京城新報社
仁川支局　仁川宮町三丁目
東京支局　東京市京橋區南佐柄木町

雜報

●南極探檢(大)計畫(第二)

南極丸の乗組員[illegible]貝吉及び探檢隊秘書多田恵一の兩氏が情況報告の爲め歸朝し白瀬中尉の意を傳へたる結果同中尉の後援會は更らに第二次の計畫を定め之を實行するに決定したるが該第二次計畫は出來得る限り學術的探檢のものと成し學術上に貢獻せんとするものにて其の内容は左の如し

◎探檢隊の上陸　白瀬中尉南極探檢隊は之を甲乙兩派に區別し左の任務に從事せしむ[illegible]に實施するを目的とし[illegible]學術部員三名隊員[illegible]として學術部長の指揮[illegible]隊員三名一隊となり[illegible]氣象磁石を始め地質[illegible]動植物上に關する研究に從事する[illegible]

◎出發期　南極探檢隊は增派學術部[illegible]南丸に乗じ本年十[illegible]と出發し該地に向[illegible]本年九月中旬まで[illegible]ものとす

◎上陸期　南極探檢隊の鑿地上陸は[illegible]

◎探檢隊は豫定の期限[illegible]隊員は探定して多[illegible]に總員協力して實[illegible]し明治四十五年九[illegible]し但し冬期中には[illegible]

[illegible]檢隊甲乙兩隊は明治四十五年九月中旬より其行動を開始[illegible]明治四十六年二月中に[illegible]の目的に從ひ學術上の探[illegible]

[illegible]乙隊共に糧食運搬に[illegible]し實施隊に屬する糧食は勿論實施以前[illegible]之れに努力し糧食を[illegible]運搬の季節を待て行[illegible]其方法は別に說[illegible]

◎探檢船　探檢船開南丸はシドニー港に歸航し陸上隊を上陸せしめたる後上陸地附近沿岸の測量及調査に從事しつゝ徐々引揚げ明治四十六年二月中旬迄に於て再び極地に向ひ上陸隊を乘せシドニー歸還し夫より歸朝の途に就くものとす但し開南丸往復に於て修理を加ふるは勿論也

◎上陸地點　探檢船開南丸は航路をロツス海に取り南緯七十八度圏内に於ける東經百七十五度より西經百七十度の地點に上陸する豫定なり

明す

●指紋法の効果

犯罪人の異同識別法として司法部刑事課に於ては昨年八月以來神野事務官主任となり指紋法の實施を始め各監獄として當時入監により出獄したるもの、全部及殘留者の一部に就き指紋の徵取を爲さしめ且つ爾後の入監者に對しても其指紋紙は總て同部に取集め一々調査分類し之によりて前科累犯及偽名入監等の事實發見に資しつゝありたるが實施後日尚は淺きに拘らず本年六月迄で既に二十餘名の前科累犯の事實を發見したりと

●露滿國境問題

七月廿一日露國齊々哈爾より入京したる某消息通の語るところに據れば露滿の國境問題は露領齊々哈爾に露國官憲と同巡撫との間に協商中の由なるが露國の提案は餘りに尨大にて同巡撫は其の提案に對して權限外なりとて答辯をなし交渉の中心點を奉天又は北京政府に移さんとて目下腦中なりと

●郡參事の任命

京畿道管内に於ける郡參事は去る二十四日付を以て其大半を任命したるが其の未だ任命せざる分は五郡ありたる、始興、仁川は二十六日付を以て任命濟となりたれば現在にては僅かに抱川郡のみ任命を見ざる次第なりと云ふ

●朝鮮下向記(二)

マンモース

朝鮮行旅客待合所と云ふのに努れ切った躯をベンチに投げ出して一息吐くとサイダーを飲み氷水を飲み漸く人心地がついたと思ふ頃、早や小蒸氣が迎ひに來て居た、午後九時半、對岸門司の燈光燦として天の河の如し。形式的の檢疫を了へて壹岐丸の一室に行李を片づけ一浴して甲板を散歩する。星斗爛干、靜に煙草を吸つて居たが漸く眠くなつたので室に戻つて寢て了う、内々渡船に鬼胎を抱いて居たが明方迄安眠した。

翌日卯天氣晴朗、左舷に絶影島を眺め乍ら九時釜山の棧橋に着いた。形外と云ふ程でないけれども流石に異境放浪の感が深い。

初めて見たる朝鮮人は實に愕かるゝものゝ一つである。

彼等の顔は御公卿様の様に延つぺりして居る、結髪も、服装も、履物も、言語も動作も之を要するに徹頭徹尾鷹揚な調子である、唯一型である、男女の區別さへ碌りしない而して是等甲乙丙丁の混沌たる者共が轉々と路傍に蹲踞し横臥し點立して居る有様は芋の子を旅に入れた様で組織的、思索的、分化的のものが寸しも見れない、ポーランドは山河空しく露國の色を染めて居るけれども猶且つ一國を爲すに足るの素質を有して居る、印度も、印度人は東洋の覺醒、印度人の爲の印度と云ふ叫びを出す斗けの多感な、○○文明族である、然るに鮮人は如何、一寸の畜取に過ぎぬけれども外化的差別傾向がないから共助もなく、進化もなく、分業もない、又思索的發明原動力がないから徹底もなく、啓蒙もなく、自主もない、況や組織的高等觀念が缺如して事々物々散離骨灰たるは勿論である、全く是亡國の民である、吾れは朝鮮人の群集を見て朝鮮人を見る事が出來ぬ。千二百萬の鮮民は今日の有様では政治的にも社會的にも經濟上には別もあれどもなきが如し(經濟上には別に論あり)

以上は釜山にて矚目したる鮮人に對する第一の概念である。

釜山は見たる所小商業地であるけれども其將來は工業地として有望と思ふ然し之とても鮮民消費力の增加に待たなければならぬ。

十時四十分發京城急行に搭じ初て半島の田圃を見る。



召使れ初

第百十九回　默法師

「そりや噺、うなたも主持ちてある身ぢやでの自儘に歸宅致すこともなるまいが、外ならぬ父上御病氣、殊に今生の暇乞ひとあるを、見捨てさする譯も無い、一應願ふて見やらぬか」と助藏は臆物に障る如き調子なりき。

「今さられ父様に別れるほどなりや、私てのやうな苦勞は致しませぬ、今さられ父様れ暇乞ひをするほどなりや、私ァの様な……」

れ衆は生体もなく咽び入る、助藏は光る目に四邊を見廻して。

「泣いた處で用には立たぬ、うなた甚の涙が真の珠とも爲て、れ父様れ薬ともならぬ間、泣いた處で用には立たぬ」

「さればとて……されはとて」

「それよりは、一刻も早く御介抱申し上げるが切ての孝行ぢや、父上大病とあるを且那様御聽あらせられぬ筈はない、早うれ暇を願ふが好いわの」

「私、錦を着るで無くば、再び家へは歸らぬ覺悟でござりました」

「意地を云ふ時で無い、身に錦を着るよりも、心に花を飾るが要ぢや」と助藏は急き立ちて「斯う云ふ間も心がかり、疾く用意、疾く歸宅、機嫌の好い顔を見せるが、什麼よりも薬ぢやわの」

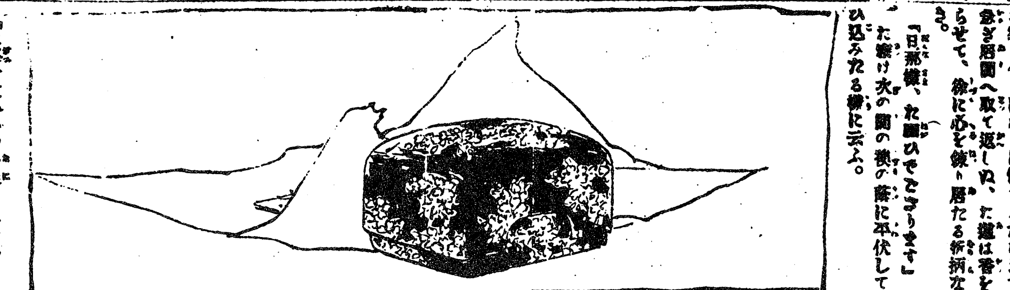
「是非もござりませぬ、獨立ちて歩く身となり、錦着て歸るでなくば、再び此父様れ母様れ目に掛るまじく覺悟したれぞ、今日に迫る御大病と承はつては、打捨ても置かれませぬ、且那様れ身の上、心に係る事もあれぞ、天道御加護を頼みにして、すぐれ後から参ります、兄上はまづ御歸らせてござりませ」

「罷ら決れは立ち歸る、くれ〳〵も今語り聞かせた事、一寸も猶豫はならぬ、時後れて今生れ暇乞ひならぬ時は、不孝の上の不孝となるで、其邊よく心得ねばなるまいぞ」

「た罰を反古に致しませぬ、我身意地から不孝の罪を犯すこと致しませぬ」とれ衆は聲に力を入れて「兄上は少しも早く御歸りござりませ」

助藏は執拗までも、疾く歸宅、父の大病見舞ふべき旨云ひ置きて、うと〳〵くに歸りたりき、年こそ若けれ、性來大膽、而して物に動じ難ぎたる申なきれ衆、今日ばかりは惱てふためきて、急ぎ居間へ取て返しぬ、た雛は香を焚らせて、徐に心を鎮め居たる折柄なりき。

「日那様、れ暇ひでござります」た縁け次の間の襖の蔭に平伏して思ひ込みたる様に云ふ。



「れ衆でないか、什麼としたの」

「當時の間、れ暇を願ふでござります」

父助八九死一生の大病と申すことでござります」

「うりや心配ぢやの、外の事とは違ひ親を捨てにも置き難ねる、早う行や」

「さらばれ暇……れ暇を給はります」

「此方には遠慮なく、心の往くまで介抱の具盡し参るぢや、他人の手で介抱するとは違ひ、肉身の看護には、死んだ者の蘇生る例もあるでの」

「有難うござります〳〵」

「うなた父御は、松平大膳太夫様御内ぢやこ申すのう」

「異い暇い者でござります」

「れ暇數は何處ぢや」

「麻布日ケ窪こゝからは餘程の道程でござります」と云ふ中も上の空なり。

「さらば暫くれ暇下し置かれませ」

多情多恨

京城藝妓の半生　清華亭　丸子（二）

前代つて此所開進亭の養女で頭して藝妓を仕て居た女に小笑

と云ふのがあつた此の妓藝と申し顔と申し格別な所は無いが唯り八々と申す勝負事にかけると酷ぶるの天才で殆んど透視的才能を持つて居た、ピケが初物の桐をカスで捜つたのは必ずとカな一の二枚持ち、位の事は七歳時分に知つて居たと云ふが素人の女房になら兎に角藝者としては寶の持ち腐れ？と思つたのは野暮、狭いと云つても流石に京城は朝鮮第一の都會廣いもので御座る、藝妓として大して驚く可き腕もない小笑、ポーンと打ち込んだ方があつた、縁は異なもの味なもの鬼神の比喩はれぬものは前世の約束で此のれ方が又大の八八好き、當地有數の富限者の養嗣子で有り作ら懇み事にもする事か恐ろしや夫れが稼業とあるに至つては驚かざるを得ざるであらう、小笑は前述の如くト方屋の娘の如に花札の間で生れた程の女の事とて左様なつて以來常に其の背後に陣取つて松の丹から入るべしメクリが牡丹の十ですから丹と青一摸し賭は貴郎、腕次第、チナ事を申上げて儲けさせるからに入れ揚げる金銭も訝しくはなかつた、然れば小笑も福々貝方も福々兩方合せてプク〜の深い交情は人も羨む程なりしが月に叢雲花に嵐ならぬが浮世の常である、其方或る日三四名の方々と今度は清華亭に場所を移した世間を繕ふ酒事の席に侍つた妓達の内には丸子も居た小笑を朝鮮一の美人、見て居た眼に丸子を見たので此れは三國一位に見ねんの、決して無理ではないのである此所に於てか其の思召は眼と口元、に顋はれた即ち眼尻は下り口元は弛むきれと見た指南番のれつる丸子を唆し掛けた、丸子も其所は天才であるかいてやアカーた、満身の力を兩眼に集めて秋波をザザザッと音のする程打つ掛けた、さらぬだに有る肝召は頭をムク〜と持ち上げたので夫れとれつるに耳打ちをしたれつる聞いた口へ餡コロを放り込まれた程に驚かない大きく一つコックリいゝのをしてスッカリ呑み込んで終つた「オ、貴方三本が一厘缺けてもと云ふんですが夫れも御承知ですか諾らないぢやありませんかアンナ赤見見如なのに……是非ですつて厳い御執心だこと……左様ですかヂヤア一つ」と此所に契約は成立に及んで流連十日の餘に及んだので小笑勘忍袋の緒を切り小殺いて清華亭に乘り込んだ、抑も此の風流才子の名は何んと云ふか曰く森勝次君の養子岡苗一次君であつた

●兄の金を持出して

▽藝妓を伴れて仁川迄

二日午前二時仁川入港大有丸二等船客中年若き男女二人の擧動怪しき者あり折から出張中の水上係石川巡査が原籍姓名等を取調べんとせしに更にツワ〜として一向要領を得ざるより嚴重訊問せし處原籍福岡縣久留米市淺下町松本東助(十九)同妻まつね(二〇)と稱し居たるも兩人の所持品を取調べたるに現金八百二十八圓九十一錢を有し居りたれば該金の出所を尋ねたる處七月十五日兄の預金一千圓を久留米六一銀行より引出し同町料理店榎木屋事田中傳吉方藝妓樋口まつゑ(二〇)を百六十圓にて落籍し十七日鹿兒島に出奔し一泊の後十八日同地發滿韓丸にて大阪に行き所々物見遊山と洒落れたる後捜索の憂あれば一層朝鮮へ高飛せんものと去二十八日大阪發大有丸にて仁川に入港したる譯なりと自白に及びければ直ちに二人共本署に引致し國元に照會中

●奔馬一少年を傷

▽輕傷なりしが未だしも

去る一日午前十一時頃仁川濱町三丁目五番地ノ三仲仕業小松勝次郎(二七)が濱町仁川製鹽所の裏手に於て荷馬車に繋ぎ置きたる馬匹は何物にか驚き狂ひ出し日本公園地下通りを花町方面へ向逸走し寺町二丁目大佛湯前より寺町と花町との境界なる十字街より屈曲して敷島街道を跳ね廻り更に折返して花開洞宮町三丁目と狂廻り漸く鎭靜せし騒ぎに折から當日は市中大掃除執行中とて各戸道具類其他一切を街路に列べ大人は勿論子供等は各所に遊び居たるより各人の心配一方ならざりしが恐る騷ぎに新昌洞統十四番地朴明雲の男五龍(六つ)が人群前に於て遊戲中跳躍の爲め蹴倒され前頭部、口、顆部等に負傷を受け宮町三丁目六番地の入山田初太郎二男進(三つ)が自宅前にて遊戲中跳躍の爲めに左手中指三關節を挫切創傷し右足部に擦過傷を負はしめたるより直ちに被害者は松本醫院に收容應急手當を行ひ更に佐藤病院にて治療等をなしたり右の出來事にて兩被害者の治療費用は關係者相互間の示談の上小松勝次郎支辨する事にて事濟みとなれり

●浮氣と算盤珠

▽乘る筈がない桁外れ

京城券番は菊家の喜代次、玉家の梅助同榮次、花家の濱助等はアノ殊雨を率して太刀國見一行中の花形連を咬へ出し土地の好男子を尻目にかけて甚だしく甘つたれて居た組の大將株、ア聞いたるが去る三十日誰れか抑も言ひ出し尻の尻振り立てゝ騒り出したのか夫れは詮議し他として前記の連中午前から旭町三丁目の鍋道樂に集合し浮氣をするにしても成る可くた寶の浮山掛らない如にとミミッチイ了見を出し合せ一人〜〜では面白くもなければ、進物を附けて共同散財と云ふ方針の下に最後の祭典を試みて大に京城の野郎連、侮辱して遣るべしと相談一決し散會後相撲場へ、押し寄け割前に至り喜代次より「今夜ねら關取」と耳打ちを受けた、土州山、黒瀬川、敷島、伊勢ケ濱、寒玉子の五人は御番の來るのを待ち兼ね此方の方は好い加減に取つてサッサと喜代次一行と共に鍋道樂に陣取つて差しつ押へつ一同夢中になつて大陽氣に騒いで居る内の一人花家の濱助のみは其の目的の忘れず『御飯にしようよねね關取、御飯にしようねね關取』と大に急いだ甲斐ありて飯も濟んで扨の一段とはなつたるが鍋道樂の主人野暮に堅いので融通が利かずさらばこて此の儘思ひ止まることは到底能はぬ所に非ずと一同當惑の顏を鳩めたらに我に妙案ありと喜代治を先頭に十臺の車を列ねて本町筋を打つ飛した迄は至極上首尾なりしが卒役割となつて喜代次は黒瀬川を買馴染なりと主張し梅助、榮次又之れに思召しあり「デなけれは歸るワ」は其助を起したるを濫助の仲裁にて鹽引だなんだと闘着せるを知らぬ顏のれ蝶 敷島を咬へて高目の見物と洒落たる時しも此れを聞き附けたる芳香にては打ち捨て置くべからずと直に電話にて呼び戻さんと試みたるも色狂の如な五人輕いれ尻を馬鹿に重くしく動き相にもなきに玉家よりは三四人の男を迎に行りて梅助、榮次だけは無理やりに連れ歸りしが殘る三人は五人の力士取りに取り寄かれて某遊郭に乘り込み大散財を極めたる祟りが百餘圓とあり目下割前の段となつてゴタ〜して居る相だが餘り成勢の好い話にあらずと樽太鼓の音より高き噂とり〜

●南極探檢隊寄附大演藝會

陸伯を會長とせる南極探險後援會にては白瀬中尉を隊長とせる南極探險隊をして再擧成功せしめんが爲めに今回廣く有志の義金を募ることゝなりたるを聞きたる當地の某有力者は義金募集大演藝會を開催し收入金全部を擧げて該會に寄附すべき計畫にて目下百方奔走中なりと云ふ

●賭博犯人の控訴

大阪府生れ當時旭町一丁目百十三番戸料理人小松吉松(三七)山口縣人當時壽町一丁目十六番戸與人樋口甚兵衛(三二)山口縣人當時壽町二丁目二十一番戸雜貨商宮崎亥太郎(三七)京都府生當時壽町一丁目七番戸雜貨商森元次郎(四五)大阪府人當時明治町二丁目浪花館雇人岩田榮三郎(三二)香川縣人當時明治町一丁目浪花館雇人山口龜吉(三八)大阪府人當時壽町一丁目七番戸藤井あい(三二)の七名が六月六日午前十一時頃壽町一丁目荒木勝太郎方二階に於て賭博を爲し南部署に檢擧されたる事件第一審地方裁判所に於て審理の結果小櫻樋口宮崎の三名有罪となり森元次郎は罰金刑に岩田山口藤井の三名は無罪となりしに小櫻樋口宮崎の三名は不服として控訴せしより二日京城地方裁判所刑事部法廷に於て塚原裁判長の係り伊藤檢事の立會の下に公判開廷せられたり被告辯護人として木尾大久保永井の各辯護士出廷事實の審問に對し被告は犯罪事實を否認せり事實の審問證據調終りて檢事は控訴棄却の論告ありて辯護人は交々立ち無罪を主張し言渡は次回開廷日に決し閉廷したり

●間拔けな横領

京城府西部阿峴二契三統七戶農揚泰權(三一)は七月三十一日京城御成町共同組吉田英よりキリンビール一打サイダー一打を龍山驛山張所に運搬方を委託され引受け運搬中途中にて前記物品を龍山元町四丁目藤井福次郎へ擅に賣却せんとしたるを予て同山憲兵分隊の手に認められ直に引致せられ業務横領律として本日檢事局へ送らる

●貨幣偽造行使

李李福(四三)劉致鑑(四七)の二名は共謀して昨年十一月以降貨幣數十圓を偽造行使したる事南部警察署に探知され捕縛取調の上檢事局に送らる

●文書偽造行使

趙召史(三二)朴萬成(二九)姜鎭赫(六三)の三名は窃盗罪並に文書偽造行使罪として南部署に檢擧され檢事局に送らる

●仁川署の留置人數

明治四十四年一月より同七月までに於ける仁川警察署に留置せし人員は合計三百八十五人なるが之を國別する時は日本人七十七人支那人四十六人朝鮮人二百六十二人等なり

●大角力仁川乘込

東京大角力太刀山の一行は一日午前九時四十分仁川驛着同地關元中央料理店其他角力關係者一同同驛に出迎へたり一行は腕車に打乘り各指定旅館に差入りし少憩の後同十一時秋田商會の主催に懸る舟遊會に一日の清遊を爲したり

●演藝だより

▲龍山座●● 合同劇三日の代り狂言は「三枚起證」「れ染久松野崎村の段」「藝者の心」「渡邊」にして重なる役割は左の如し 久作 娘れ光(尾中)久作 小半)久繩 鐘師匠(東市)明法學生和田信一(重忠)藝者 玉吉 奴)▲壽座● 木村一座三日の代狂言は「琵琶歌」にして重なる役割左の如し 荒井三藏(木村)妹里(君子)定次(一瀨澤)西村金太(寺田)菊仙(澤井)▲浪花館● 浪花光廣、浪花節にてれ禮の爲め木戸出代共無料なり



▲次の如な疑義が來た他山の石として研究しよう▲係に御尋ね景品付で賣出を爲し景品の一部分たりとも實行せざりしときは詐欺を以て處罰せらるゝは勿論である京城日報は月定め讀者角力を觀覽せしめるとの事であるから僕は今更慚愧の至りであるが月定め一確に觀覽券を配付を受け出掛けたら滿員の故を以て木戸を突かれた無論詐欺するものは充分策略を廻らし脫け道は研究しゐらう然し詐欺されたは確實である(悔生)▲詐欺たとは穩でない前段の景品付きと云ふのとは趣を異にする景品は何千何萬あらうとも闘へる事が出來るが興行物にあつては場所に制限がある場所に制限がないものとしても人間の體力には制限があるから角力の如きは寺内の人間には制限を附しあるが如くに成り行くのは當然だ然れば假りに彼の角力小屋に二千五百を容るしとして三千五百以上は其の所謂木戸を突かるゝのは初めから知れ切つた事だ結局早く行かなかつた罪だ、併し早く行かなかつたからと云つて約束した(果して貴君の云はるゝ如く)觀客を追ひ歸すと云ふことは惡事ぢやないが不注意だ即ち入を測らずして出るを制しなかつたと云ふ責は免れまい、目方で賣つても二三十錢がものはあゝ新聞を買つたゝに角力が滿足に見られるものと思つたのは不用意だが其の不用意に乘じて滿足せしめざりしは京日子の不用意だ、不用意は双互だ、況んや貴君の言はるゝ如く月極め讀者には角力を見せると勸誘したのでないに於てれやだ結局勸誘り損だ、見玉ね勸誘された處妓連はチヤンと觀物させて頂いて居たヂャないか(木僧)▲農商工部には一級俸の山崎と申す人は見當らず勅任技師の藤巾者に似た様な三級俸がある名は知らず見に角氣障らしい男が候鼻の下に髭が有る(絵竹の乾兒)▲本町六丁目邊りの御の便所は何日も置取放けにて時節柄衛生上大に心配致します又其所に有る塵箱は毎日小さき蛆虫が大發生して近隣へハイ回る何卒然るべく願上ます(四近迷惑生)▲水道鐵管が曲つて水を五間以上も其の曲り目から吹き上げか相だ實に壯觀だつたよ」(●●●見生)▲オイ坊」がつて居しは困るよソロ〜蛇投が頭を擡げ、居る時だ」巡查君や憲兵君は又御苦勞なことだ(●●一小僧)▲或地方相手の商の眼に平安北道や安南道全羅北道慶尚南北道等の物品購入方が非常に不公平だと云ふ其の內京畿道平安南道の如きは最も不公平だと云ふ要するに會計主任即ち用度掛が物品購入に經驗が乏しい結果だ若し事實とせば有難くない購入物品に關し研究有て可然り(京城商人)

京城新報

本年の帝國議會に現はるべき半島の諸問題

今や寺内總督は諸般政務の調査を了へ將さに東上して半島來年度の豫算に關し、中央政府と協議し、續いて帝國議會に臨まんとす。此時に當つて本紙が議會の問題となるべき件名と事項とを列記し、治者たる總督及び被治者たる一般世人の注意を喚び置く事は決して無用の業に非ざるべしと信ず。只恐る本紙微力にして調査全からず、從つて重要問題にして必ずや逸せられたる者尚ほ多かるべきを信ず、因つて右に付ては他日を俟つて補遺を爲すこととして今は只だ本紙の微衷を諒とし、深く咎め玉ふことなからんことを請ひ置く。

一、内地半島間の關税撤廢
附 半島の穀物移出税及内地の穀物移入税全廢

二、會社令の改正
現會社令は産業の振興發達に有害也

三、半島鐵道賃率の引下げ
現賃率は高きに失す殊に鮮人にとつては殆んど禁止率なり

四、國際鐵道としての半島鐵道の設備
附 京城停車場の改築及びホテル其他の新設

五、平元鐵道の敷設

六、京釜京義幹線に接續すべき地方枝線鐵道の敷設奬勵
附 一億圓の社債募集權を有する東洋拓殖會社をして前記地方枝線鐵道敷設の任に當らしむる事

七、沿岸航路の統一
沿岸航路の統一は必要なり而かも過大の保護は却つて事業の進歩發達を害す

八、東洋拓殖會社事業の成績如何

九、韓國銀行營業方針如何

十、内地より半島に向け移出する酒醤油の戻税の廢止
右は現在半島の各所に起れる酒醤油醸造業を保護する所以にして同時に移入超過を減殺するの途なり

十一、憲兵警察の分離
附 卸決例に對して外國政府より抗議の來りし理由

十二、各道の警察權をして各道長官に屬せしむる事
附 道長官と警務部長との關係の圓滿ならざる理由

十三、民團制を廢止すると同時に右に代るべき自治制を布く事

十四、移住内地人の原籍を半島に移し得るの制を設くる事

十五、併合前に於ける各民團の功勞者及び併合に關する民間有功者に授賞の事

十六、鮮人教育の方針を明かにする事
今や新附の民たる一般鮮人は向後の教育に關し不安の念を抱く

十七、地方道路の工事に賦役制を適用するは不可なり
西班牙ポルトガルの兩國曾つて此制を殖民地に用ひ共に賦役者の怨を買ひて失敗に了る

十八、慈惠院の増設
慈惠院の効果は顯著たるものあり政府は宜敷豫算を吝ますして同院の増設を斷行すべし

十九、皇太神遙拜所の設立
聞く神宮奉齋會は京城に皇太神宮の遙拜所を新設せんとすと、政府は宜しく該事を援くべきなり

二十、總督府の對外人基督教宣教師方針
政府は各宗教に一視同仁ならざるべからず、而るに總督府が基督教青年會に毎年金壹萬圓づゝの補助を與ふる理由如何

二十一、監獄の設備如何

二十二、京城の市區改正に要する費用の補助

二十三、間島に於ける鮮人の狀態如何

二十四、滿洲と朝鮮との國境調査の進歩程度

二十五、總督府冗員の淘汰
政費節減を意味す

東京電報

桂首相の歸京

昨今内閣更迭説の喧なるを他所に見て輕井澤別莊に避暑中なる桂公爵は一週間以上滯在の筈なりしも近來細雨打續き時に大模險悪なる爲め三日一旦歸京する筈なり

本年米作豫想

本年の米作は播種以來良好にして過般の暴風雨も被害輕ければ今后天候の大變無かりせば豊作ならんと農商務省當局者は語れり

浦港改造計畫

露國商工大臣は浦鹽商港改造案を内閣に提出したるが其理由は近來日本は元露東亞の貿易を南滿朝鮮諸港に移さんと苦心しつゝあり浦鹽を改造するに非されば到底之に競爭し難しと云ふにありて第一期の改造費は五百五十萬圓第二期は百八十九萬千二百六十圓なり

下旬の貿易額

七月下旬外國貿易輸入額一千四百六十六万三千圓にして輸入額一千四百〇七萬三千圓なりしと

七ヶ月間の輸入超

一月以來七月迄の外國貿易輸入超過は一億二千五百四十五万圓の多額に達したり

日露懸案解期

日露兩國間に於ける各種の懸案は全部十日頃平和に解決すべし

▲學制案と輿論 七月三十一日發表されたる學制案は一般に評判宜しからず

▲電車開業營業開始 東京市營の新電氣局は營業を開始せり

▲濟生會寄附決定 恩賜財團濟生會の事業資金は八月中旬を以て決定する筈にて目下各地方長官は各府縣に寄附金を取纏むる爲め盛に任諮人會を設けて寄附を要求したりしが東京、横濱、名古屋、京都、大阪、神戸の六都市に於て千三百萬圓其他の縣にて千二百萬圓合計二千五百萬圓に達したり此の外特志者の寄附に係るものを合算すれば最初の豫定額たる三千万圓に達すべしと

▲墺匈國との暫定條約 墺太利、匈牙利國との暫定通商條約締結され來る三日勅決の筈なり

▲上海の海軍船渠 清國政府は上海に海軍用船渠を作らんとの計畫あり

▲乃木大將の消息 乃木大將は八月十一日獨逸皇帝御統監の下にアイェッにて擧行せらるゝ陸軍演習に參列すべしと

▲トラスト煙草税解決 久しく行悩中なりし英米トラスト煙草課税問題は今回解決したるが其結果奉天城内日本人煙草製造所三林公司も課税せらるゝに至るべし

▲結核豫防會委員發期 來る九月羅馬に開會の万國結核病豫防會議に參列の北島醫學博士は來る十三日發渡歐すべし

雜報

新行教監講習會

既報の如く本年新設ノ公立普通學校教監に對し必要なる學科目の講習を爲さしめんが爲め本年八月より採用すべき教監約百三十名を來る七日より二十六日迄で(二十日間)官立漢城師範學校講堂に於て左の科目に就き講習を行ふ事に決定したり

一 朝鮮教育制度の沿革の大要及現状を說き兼て朝鮮教育に從事するものゝ心得
一 現行法規の大意及特に注意すべき事項
一 朝鮮地理の自然及人文の一斑を授くる外特に各地の交通文野人情風俗等に關する事
一 朝鮮の重要なる事績の大要
一 修身教授上特に注意を要する事項
一 教科書取扱方は專ら教科書編纂の趣旨を明にし且つ其の使用方に付注意すべき事
一 朝鮮人に對し教授上特に注意すべき要件を授くるを主とし兼て一般教授法を說示する事
一 日常普通會話を主とし兼て朝鮮語讀本に付讀方及解釋を授くる事

尚ほ時間外に左の講演を開催す

一 朝鮮地方制度 小原地方局長
一 朝鮮警察制度 衣角警務官
一 朝鮮の金融機關 中村理務課長
一 朝鮮の農業 藤原書記官
一 朝鮮の林業 齋藤山林課長
一 朝鮮の事情 國川事務官
一 朝鮮教育實驗談 妹尾教監(開城) 原田教監(仁川)

其の他講師には石田視學官弓削學務課長上田囑託廣田囑託小田編輯課長立柄編輯官山口師範學校囑託其の他數名也

寺内總督教員引見

寺内總督は二日午後四時官邸に目下滯京中なる各小學校教員百二十餘名を引見し一場の訓示を與へ夫れより京城ホテルに於て茶菓の饗應ある筈なり

朝鮮教育講演會

既報の如く京城朝鮮教育會講演會は一日午後七時三十分より京城日本人商業會議所樓上に於て開會さる來會者百七十名最初小杉幹事長開會の辭を述べ次で文學博士芳賀矢一氏の講演(別項參照)あり終つて餘興に移り三遊亭千朝の落語及び久木田氏の薩摩琵琶あり此の間茶菓を饗し散會せしは十時半なり

芳賀博士の講演(一)

…教育會に於ける…

予は京城教育會々員諸氏の依囑により爰に愚見ながら予が朝鮮に來りてより感想を述ぶるを光榮とす知說現今日本より朝鮮に渡るものは必ず二樣の感を起さるゝならん、一は歴史の變化と日本の國威が都會は勿論十三道、津々浦々迄も普及充實し國運の長へに昌んにして大和民族の發展日を追ふて著しきと一は朝鮮が同種同文の國なるにも拘はらず累年衰弊の結果遂に獨立國としての體面を保持する能はず領土を擧げて日本の支配に俟たざるべからざるの運命に陷りし事なり蓋し前者は日本の爲に喜ぶも後者は朝鮮の爲めに悲しまざるを得ず言ふ迄もな朝鮮と日本とは古來より唇齒輔車の關係を有し往古にありては言語風俗習慣等も略ぼ相同じく殊に平安朝時代に至りては婦人及び子供の服裝其の他食器等相酷似し一些の相違を見ざるものありたり而して當時にあつて斯く凡ての風俗の酷似せる所以は要するに相互の交通頻繁にして日本が朝鮮に模倣する所多かりしが爲めなり然るに其の後星霜を經るに從つて日本は徐ろに進歩の度を高めて文明の域に進み朝鮮は日一日衰弊して遂に他國の支配を受く當時を想ひて今に及ぶ轉た感慨の念に堪へざるものあり

然り而して日本が當時に於て朝鮮の文明を凌駕して以て今日の盛運を致せる原因は言ふ迄もなく支那の文物を輸入し制度を模倣したる結果にして支那六朝時代にありては彼れは實に文物典章燦然たるものあるに拘はらず日本は文化の程度極めて低く殆んど同日の談に非ざりしなり次で奈良朝時代にいたりて日本は佛教の旺盛と共に益々支那の文物を輸入し爰に始めて文明の萌芽を見るに至れり而して當時にありては佛教は一種の學問にして信仰といふよりは寧ろ智能研磨の機關として修められ朝野の人競ふて佛門に入らざるはなかりき而して又之れが反動として佛教の弊害徐ろに生じ國民は爲めに其腐潮に一變を來して惡感化を受けんとするの傾向なからざりしが不思議にも之等の光候なく却て佛教を利用し善用し毫も佛教の弊害のために腐敗さるゝ事なく加へて其後神佛混合の時代にありても間々弊害の憂ふべきものありしが武人は勿論一般國民は更に之れが弊害を蒙らずして却て國家鎭護の神として之れに歸依したり(一記者)

南北朝問題講演

目下當地日の出町小學校に於て夏季講習會にて講演中なる芳賀文學博士は來る四日午前十時より同會にて例の南北朝問題の經過に關し講演を爲すべしと云ふ

作蠶飼育統計

朝鮮各道に於ける作蠶の飼育は其の日數千廿日にして飼育林面積一萬六千七百十三町步收繭顆數三千五百七十五萬九千四十七顆にして四十二年に比すれば實に三千百五十七萬餘顆即ち八倍半の増加なりと云ふ尤も此内全羅南北慶南道の二道は少しも飼育せざりし由なり

夏季講習會終了

去る二十六日より日の出町小學校に開會中なりし各道小學校教員講習會は豫定の如く來る四日午前を以て終了し午後講習證書授與式を擧行すべしと

嚴妃の葬儀

故嚴妃の葬儀は豫定の如く二日午前五時三十分靈柩永徽門を發し肅々として執行せらる今其次第を記せば

△靈柩殯所を出づ 五時二十分靈柩は殯殿より新に設けられたる高さ六尺位の大輿の上を木綿綱にて引かれつゝ大輿に移御せらる此間祗候官に經へたる數十名女官等は何れも號泣して從ひ其前に設けの輿に移し了る哀號の聲一層高く徐ろ悲愁の情を催ばしめたり

△永徽門の發靈 大輿に移されたる靈柩の今や永徽門を出でんとするや李王李太王王世子三殿下は一定の喪所に臨み喪服喪帽を着用悄然として靈柩を御見送せらる、李熹、李埈の兩公其他の貴族等之に引續き夫れ〳〵所定の場所にて發靈に送迎す

△葬儀の行列 紅蓋を先頭に四眼鬼面の方相子二對次ぎに赤袴の泣男の騎馬に跨りたる者四騎次いで紙製寶物二倍の大の所謂竹鞍馬三對人夫各々八人を以て之を舁く彩牌吊燈籠喪輿等數十次ぎに勅一等寶冠章及紳伊藤二公寺内總督濟遠宮相山縣總監會禰子大久保大將其他東西本願寺愛國婦人會東拓總裁等の花輪續いて六百餘人に擔がれたる大小二輿永成門を出で祭官二十人之が前後に扈從し威儀頗る堂々たり、行列は神武門東十門を經て清涼里の洪陵に向ふ

△靈柩永徽園着 永徽園は東陵内新に設けられたる嚴妃の墓所なり午前十時靈柩到着するや掛幄內に時休憩會食し畢りて時三十分壙室を啓き僧侶の讀經祭官の讀經了りて一時四十分李王殿下代理尹德榮子、李太王代理金鐸侍の代拜ありたる後李王世子殿下親しく壙室に入り拜禮せらる之れに續いて總督代理外波武官山縣總監軍司令官代理及び明鮮貴族女官等の參拜あり了りて封墳式を擧行し各員退散したるは午後四時過なり

水道給水復舊

一日午前八時又々故障を生せし水道の鐵管破損個所は其後係員に取掛りたるも元來此の鐵管は鐵手短き爲め先般破損の際も充分に鐵手を合する事出來ずして給注入を行ひし爲に今回の破損を見たる次第なれば此際新らしき鐵管と變換する事に着手したるが二日午前十時二十分頃全く工事を終了し直ちに水源地より配水池へ向け揚水を開始したるが午前十一時に至り壓力計は二百五十尺の平時に復したるを以て市街への通水を始めしに午前十一時四十分には最早市街の低地(鐘路永樂町附近)の水栓は吐水し始め午後三時迄には全市街の給水を見るに至りし筈也

木内氏出發期

木内前農商工部長官には三日午後十時四十分南大門驛發列車にて當地發歸東すべしと

梯子島の漁況

全羅南道莞島郡梯子島は未だ漁期に至らざるも豊漁を豫想し漁船の來集するもの日に増加し目下三十七艘に及び尚續々入込みつゝあり七月三日より九日に至る七日間の漁獲高四千七百十圓にして一般に良好なりと

平北の模範農

平安北道にては各府郡に一名の割合を以て模範農を設置し農業改良に關し模範を示し地方農民を感化せしむる爲め適當なる者八十四名を撰擇し一人に三十圓以内の農具肥料を給與し種苗場の指揮監督を受け左の事項を實行せしむる事とし現に實行中なりと云ふ

▲自己所有の山林の一部を苗養林となすこと(蠶業地は桑園一反步以上を設くること)▲田畑を改良すること▲水田は稻刈後必ず冬耕をなすこと▲堆肥の製造▲水田の排水を良好にすること△籾の乾燥を精し中乾をすること▲害虫を丁寧に驅除すること▲作物株間距離の一定なり

芳賀博士出發期

滯京中なる芳賀文學博士には來る四日講習會終了後一兩日滯在の上歸東すべしと

小松局長引籠り

小松外事局長は微恙の爲め引籠療養中なり

造林樹種成長量

農商工部山林課にては京城仁川及揚州郡等に於けるポプラー、朝鮮ドロノキ及びエセアカシヤの成長量を調査したるが其の成績に依れば前記三樹種は成育極めて旺盛にして其材積收穫の多量なること到底他樹種の企て及ぶべからざるのみならず京城附近の土地に最も適當なるものなることを知る就中ポプラー最も有望なり

山根囑託の消息

去る二十二日來南鮮各地の水害狀況を視察の爲め衛生視察を兼ね衛生講話を爲しつゝある山根衛生囑託には昨日大邱發釜山方面に向へたる由なるが來る十一日頃歸任すべし

分遣所長の歸任

京城第二憲兵分隊にて開議中の管内分遣所長會議は二日午前九時より會議する筈なりしが嚴貴妃葬儀取締の爲め休會八月一日の會議を以て終了の事とし各分遣隊長は二日夫れ〳〵歸任したり

ベンチッヒ教授入京

東京帝國大學教授獨逸人ベンチッヒ氏は一日入京し二日寺内總督を官邸に訪問したるが三日は昌德宮秘苑及景福宮等參觀の筈にて二三日間滯在歸東の筈なり

鮮人判任文官試驗

九月一日より各道廳に於て朝鮮人判任文官試驗を行ふ由にて志願者は來る八月二十日迄で各道廳へ願書及履歷書を差出さるべしと

公人私人

▲早川省三(平安農工銀行支配人)一日不知火へ
▲川浪虎次郎(遞信局技師)一日釜山行
▲宇多敬雄(金融組合理事)一日晩秋行
▲大塚忠助(釜山民團議員)一日釜山行
▲岩瀬醇(大邱商業會議所會頭)一日大邱へ出發

仁川港出入船舶

▲水清丸 三日七坂より入港
▲山東丸 同 大連より入港
▲大有丸 同 大阪へ向出港

京龍兩驛の貨客

▲南大門驛乘降客(一日分) 乘車客 二九〇 降車客 一四五
▲南大門驛發著貨物(一日分) 發送高 四八七、六五〇 五噸 到着 一八〇 七四、四五〇
▲龍山驛乘降客(一日分) 乘車客 七四二 降車客 八二六 一九一、六五〇、五七〇
▲龍山驛發著貨物(一日分) 四二噸 到着 六六二 五三三、一六〇

京城手形交換高

八月一日 金高 一三、八七、一二〇 枚數 七七

茶袋

寺内總督の東上も切迫したが、時恰も内閣交迭の時か偉くに傳へられる、内閣の變動それが事實になつて現はれるかドウカは別問題として寺内伯が朝鮮總督專任となる事だけは間違ないらしい▲朝鮮軍備問題も政治家中に大分八釜敷論議されてをる、陸軍當局に對して、寺内伯も此問題には極めて力瘤を入れてをると云ふ、今日朝鮮駐屯の師團として兵營などを要するもの他に幾らも有るに拘はらず、不急な軍備問題などを擔ぎ出して、世の物議を招ぐ樣な事は、思慮周密なる寺内伯には有うな事でない、恐らくこれは與の風說であらう▲芳賀博士は教育會に於ける講演中に、大和魂と云ふことは何の時代から唱へられしものか知らぬが、恐らく菅公の言つた和魂漢才から這れたものではあるまいかと云つた、これは一寸味ふべき說である▲菅公の所謂和魂漢才は國民の本性を失ふことなくして、他の文明を採り以て智識を開發せよと云ふ意味なる、今日でも國民として此心掛がなくてはならぬ然るに近來は徒らに大和魂を振翳はして自惚る者が頗る多い、之が爲めに折角日本の文明も經濟的に價値を有せぬやうになつて仕舞つた、ロンナ事で世界の一等國たるの實質を享受し且之を保持せうとするのは到底覺束ない▲最に米穀の關税を引上げた政府が、止め度もなく米價が騰貴するのを見て、彼れ狼狽慢ぎ僅かに九月三十日迄舊税率を維持して之を防止せうとするのは愚も亦極まれりだ▲米穀に關税を賦課すると否を見つたならナゼ一層の事之を全廢せぬか、輿論も現に全廢を叫んでをるではないか、こゝ一番寺内總督の政府に突込所だ、總督は此機會を逸せず、日鮮商工業者年來の希望たる鮮米輸入税を撤廢させる事に努むべしである。

名士貴婦人訪問記

松溪生

濃淡の別也

（林田龜太郎氏）

俳優用の化粧品と、素人用化粧品との差は、一言以て之を掩へば、曰く濃淡の別である。俳優は各種の役々に扮裝するの必要上、時に或は顏面の素質をも全く沒却せざるを得ぬを以て、厚化粧即ち俳優の生命である。之に反し素人の化粧なるものは、所謂身嗜みに止まるを以て餘り厚きに失する時は、遂に藝人に伍するの嘲を免れざるのである。藝人の美は人爲的であるが、素人の美は飽迄も自然を發揮するに止めねばならぬ。巴里婦人は粉粧を以て天下に誇りつゝあるものであるが、一旦倫敦に到り英國婦人に接するに及んで、吾等百日の粧は英國婦人の自然美に及ばずとの嘆聲を發せしめたりとの話がある、比を我國に求むれば倫敦婦人は東京式で巴里婦人は昔の西京式である、吾輩は斯う云ふ事には至つて智識が無いのであるから此の位で其の意のある處を察して貰ひたい。

貴夫人女學生の化粧に就て

△寺島伯曰く俳優の舞臺に於ける化粧と婦人が家庭若くは交際場裡に於ける化粧が兩立するものなるや否やといふ問題は頗る興味ある問題である、吾輩は必ずしも兩立せずと斷定は下さないが、事實上自ら兩立するものではあるまいと思ふ、俳優が舞臺に於ける化粧は光線の關係や遠見の美を衒ふ爲め厚化粧を凝らすことを常とするも普通の婦人が此眞似をしたならば忽ち目引き袖引き宛然役者の樣だと評せらるゝのである　是は日本も西洋も同じことで要するに一は繪畫に於ける青綠山水の如く一は淡彩を貴ぶ水の如く、貴婦人の化粧は淡彩を貴ぶには在りと爭ふべからざる事實であらうと思ふ

△嘉悅女子商業學校監督曰く女子教育者としては外面の化粧に重を措かず心の美が形の美となることを理想として居りますから化粧は成る丈けホンノりと薄化粧に止めるがよからうと思ひます頭腦の出來た女子は俳優の舞臺化粧などに釣込まれる樣なことはない樣ですが無教育の女子は動もすれば俳優利用の廣告に引付けらるゝ人もある樣ですから私は女學生の變化粧は常に成るべく簡短に且つ薄く嗜み丈けのことにして自然美と心的美の調和を保たしめる樣に勉めて居ります。

●村井弦齋氏の化粧談

平壤驛を南に約二丁の松林中に一萬餘坪の形勝の地に瀟洒なる別莊を構へ涼味紳々たる裡に球戲場もあれば讀書室もある。是れなん曾て報知新聞の家庭小說を以て淑女紳士方や、家庭の奥樣方の大歡迎を受けて成功したる村井弦齋君の居である。記者は君の化粧品に對する意見を叩くべく刺を通じたところ快く其室を引いて左の如く趣味ある談話を試みられた。

如何にせば最良なる衛生的化粧料を得らるべきかといふ問題は、私も多年讀者の爲め博士や學士若くは專門家の意見を伺ひ、又各種の材料を取寄せて研究しましたが、未だ解決するまでに至らないのです。併しながら私の研究中の目的から申しますると、先づ皮膚の衛生といふ上から云へば、糠を基礎として精製した洗粉が、一番理想に近いものゝやうに思ふのであります。それで今日の所で洗粉と石鹸とを比較して、孰れが皮膚の營養を保ち、脂肪を去り血液の新陳代謝を盛んにし、肌を滑かに且美白ならしむることが出來るかと云へば、無論洗粉の方が良いので、洗粉と石鹸の比較論は殆ど其善惡を論ずる余地はない位に極つて居るのです。併しながら洗粉にも種々樣々のものがありますから一樣には斷言は出來ませぬが石鹸と比較すれば假令百圓十圓の價がある石鹸でも皮膚の衛生を保つ上には多くは危險である。今石鹸を化學的に分析したならば或は游離脂肪存在若くは刺激性の混合物のあることを證明するのであります。恐る關係からして早稻田の大隈伯の所では化粧料としては石鹸といふものは一切用ないやうに聞て居る又皮膚病專門の加藤ドクトルは冬期病人を診察した后で一旦石鹸で洗ひは傷にはならないで、スグ「ワスリン」を塗て一面には皮膚の營養を保ち一面には皺眠の豫防をするさうであります。如何に石鹸が刺激性の包含物を含んで居るかといふことは海岸地方を旅行するとスグ解る。即ち淸水の乏しい鹹水を含んで居る井戸の水で頭を洗ふときに石鹸を使ふと忽ち毛髮が棒のやうになつて、其不快は實に言語に絶する位であります。此の場合は洗粉を用ゆると滑かに納まるのです。是等は畢竟其包含分子が鹹水に抵抗しない特性を持つて居る偶然の關係でありませうが、兎に角洗粉と石鹸の善惡は、是等を以ても歴然立てることが出來ます。要するに私は衛生的化粧品としては、糠や澱粉の如きものを基礎として精製したるものが最も良いやうに思ひますが、クラブ洗粉の如き成功したる化粧品が今後益々此の方面に向つて私の理想的研究を加ふる方針を御執りになることは、私の最も賛成するところであります。

●尾崎東京市長夫人の談

空は曇れどソヨと吹く五月の風に渡るが如き新綠の間を縫ひ品川東海寺畔の尾崎東京市長の邸にテオドラ夫人を訪ね其化粧談を求めしに左の如き趣味ある批評を試みられた

婦人の化粧は勿論淑美の法であります、是れに就て科學的のお話を致す事は六づかしい事ですが、自分の考へでは凡て婦人の化粧の原則に於て身分相應と云ふ事が肝要と思ひます、即ち貴婦人は貴婦人らしく令孃は令孃らしくして、かりそめにも俳優の舞臺顏などに擬れない樣にしたいと思ひます世間には教育の程度にも依りませうが、俳優や藝妓を眞似てコッテリと厚化粧をなさる方も往々ある樣ですが誠にあれは見惜いもので西洋でも心ある人が之を見ると大變笑ひます西洋では自然美と人工美の調和と云ふ事に重きを置いて居る樣です、それで自然美と人工美の調和は何に依て得らるゝかと申しますれば淡化粧に依て保たれます之と同時に其品質は衛生的が伴つて居るものでなければなりませぬ、成程佛蘭西の製品などには品質の上等なものは澤山ありますが是れは生活程度に依つて用ゐらるゝもので一般に用ゆる事は六づかしい樣です、此點から見ますとクラブ白粉クラブ洗粉は私共に取て身分相應と云ふ事と衛生經濟にも適ひ且つ使用後の心神快感と云ふに云はれぬ味がありますから、私は內國製造の白粉洗粉では尤も理想に適つたものと思ふて愛用して居ります



